

【周南市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

災害の発生に備え、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した総合的な体験学習を実施し、災害発生時において正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時：令和5年8月26日（土）・27日（日）
- 2 実施場所：周南市立熊毛中学校
- 3 参加者：三丘小児童1名・勝間小児童1名・熊毛中学校生徒21名・熊毛北高校生徒3名
小学校教員9名・中学校教員5名・高等学校教員3名・地域住民6名・保護者3名
光市消防署員1名・日本赤十字山口支部6名・周南市防災危機管理課職員1名
県教育庁職員1名・周南市教育委員会職員1名・市防災アドバイザー1名

4 プログラム

【1日目】8月26日（土）

13:00	14:00	16:00	17:30	19:00	20:00	20:20	
受付	開会・自己紹介	「研修1」 「避難所生活のルール作り」 ・避難所生活の実態把握 ・段ボールベッドづくり	「研修2」 「防災食づくりと地震の際の備え」 ・非常食(米)の炊き出し ・「家具安全対策ゲーム」	夕食・休憩	「研修3」 「救急救命法」 ・人工呼吸と心臓マッサージ ・AED使用法	下振り 校り 準返 備り	反省会 児童生徒見送り後、

【2日目】8月27日（日）

7:00	7:20	8:00	8:30	9:30	10:00	10:30
受付	朝食	ラジオ体操等	「研修4」 「災害救助の経験から」 「ロープワーク」	振り返り	閉会行事	解散

5 活動の様子

1日目

《受付・開会行事・自己紹介》

参加者は熊毛中学校体育館を避難場所に想定し、集合しました。

受付については、当初学校ごとに「引き渡し訓練」を想定した「避難者カード」等の受け渡しを行う予定でしたが、コロナの影響等により参加者が激減したことから、一括して行いました。

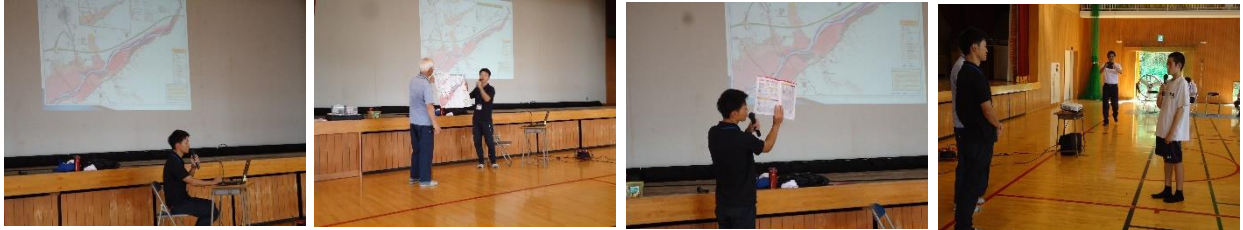
開会行事では、実践委員長である熊毛中学校長が挨拶を述べた後、周南市防災アドバイザーの藤井貞臣さんから、防災キャンプの意義と重要性についてのお話をいただきました。最後は、アイスブレイクを兼ねて自己紹介を行いました。



《研修1「避難所生活のルール作り」》

研修1では、周南市防災危機管理課の福谷諭主査と、周南市防災アドバイザーの藤井貞臣さんから、避難所生活のルールについて講義をいただきました。熊毛中学校区では、平成30年の豪雨災害で、特に三丘地区に大きな被害が出ましたが、参加者の中に実際に避難所での生活体験を持っている人はいませんでした。そこで、参加者はまず、講師の二人から避難所で生活するということがどういうことか話を聞き、その後、実際に避難所の写真を交えながら気を付けたいことなどの具体的な内容について教えていただきました。

二人の講義に共通していたことは、「自ら考え、自ら行動できる避難者となれ」というメッセージが込められていたことでした。自治体からの避難情報は確かに重要ですが、それに頼りすぎることなく自分の判断で避難行動を開始すること、そして、自分のライフスタイルなどに合わせてそれぞれに避難場所を選択することの大切さを教えていただきました。



講義の終盤には、段ボールベッドの製作実習がありました。思いのほか簡単に製作でき、プライバシー保護などにも配慮した段ボールベッドに参加者は感心しきりでした。



《研修2「防災食づくり」》

研修2では、日本赤十字山口県支部から多くの講師を招いて「防災食づくり」を行いました。米飯の簡易炊飯体験を参加者全員で行いました。もちろん全員が初体験だったので、無事に米が炊き上がるか心配でしたが、全員「成功」でした。



また、米が炊きあがるまでの時間を使って「家具安全対策ゲーム（KAG）」に参加者全員で挑戦しました。自分の部屋の間取りを再現することにけっこう手間取る人も多く、まずは、間取りをしっかりと把握することで、防災についての意識をしっかりと高めることが大切であることを再確認することができました。

《夕食》

夕食のメニューは「五目御飯」「焼き鳥の缶詰」に研修2で作ったご飯を加えたものでした。なかなかボリュームがある上に、ご飯ももちもちしていたので、参加者一同、おなか一杯になりました。今回の食事は、基本的に火も食器も使わないことを前提にしていたので、参加者はそれぞれ工夫をしながら上手に食事を行っていました。避難所生活同様、日頃、防災食を目にすることも口にすることも少ない児童生徒たちにとっては、とても新鮮な経験だったように思います。



《研修3「救急救命法」》

1日目の最後の研修は、救急救命法に関するものでした。講師は、光市消防本部の藤井哲さんにお願いいただき、主に心肺蘇生についての実習を行いました。救急車の出動を要請してから、到着するまでの時間（平均8分間）、どのようにして命をつないでいくのか、身をもって体験すること

ができました。実際に児童生徒が心肺蘇生を施したのは2分間にすぎませんでしたが、それでもかなりの負荷がかかり、やり終えた後は、みんな疲れ切った様子でした。だからこそ、人命救助の大切さや大変さも実感できたのではないかと思います。



2日目

《研修4「災害救助の現場から」～ロープワーク実習～》

今回の最後の研修は、三丘地区在住の川北真三郎さんから、災害救助の体験談とロープワークについての講習を受けました。現役の消防隊員として多くの災害救助の経験がある川北さんから、実際に災害現場の写真を交えてリアルなお話を聞くことができ、参加者は改めて災害の恐ろしさについて学ぶことができました。



その後に行ったロープワークでは、日常生活に使える便利な結び方を教えていただきました。ともするといったん覚えてもすぐに忘れてしまいがちなこれらの技術も、日常生活の中で当たり前のように使えるようにすることが大切であると改めて感じました。参加者はみんな夢中になって、それぞれロープと格闘していました。



【児童・生徒・参加者の感想から】

- 遊園地などでもよく使われていたロープの結び方だったので、それ以外にどんな使い方があるか分かったし、地震が起きた時の対処の仕方も分かった。
- たくさん話を聞いて、避難することは大切なことで、災害はいつ起こるか分からないのでしっかり備えておこうと思いました。
- 実際に災害を経験した人や、その救助に行った人の話は重みがあった。便利なロープワークなども習ったので、これからは生かしていきたい。
- 私は吹奏楽部員ですが、ロープワークは楽器と一緒に避難する際にとっても役に立つと思いました。災害への危機感を高めるいい機会になりました。
- ちょうど1日目の夜に大きな地震があり、びっくりしたので、この研修の重要性が改めてよく分かった。自分の家は特に防災対策をしていたかったので、これから家具の配置などを家族でよく話し合いたいと思います。
- 防災食作りでは、あんなに簡単にお米が炊けるのかと、ちょっとおどろいた。自分で作ったご飯はまあまあおいしかったが、それよりも五目御飯がおいしかった。火も使わず、日持ちもするので、すごいなと思った。
- 段ボールベッドがあんなに簡単な構造なのかと思った。実際に寝てみたが、けっこう温かかった。(その分、夏は厳しいかも) 避難所生活は、写真で見るととても狭く、暑苦しいのでできれば経験したくないと思った。
- 保護者として参加したが、いろいろなことを勉強できてよかった。ただ、コロナ禍で仕方ないとはいえ、宿泊の体験ができなかったのは防災キャンプとしては残念なところだった。

- 朝食で食べた缶入りのパンがとてもおいしかった。昔は固いパンだったようだが、やわらかくて普通の食事でも大丈夫なくらいだった。
- 避難所生活の大変さがほんの少し分かったように思う。特に1日目はとても暑かったので、この中で多くの人が生活をするというのは、結構苦しいのではないかと思った。避難する場所や方法などについて、真剣に考えてみたいと思う。
- このキャンプを通して、自分で何かできるかをもう一度家族で話してみたいと思う。防災キャンプについては、もう少し早くから準備に着手して、もっと多くの参加者を募ればさらによかった。
- 知っているからこそ動ける、判断できることが増えていくのではないかと感じました。昨日の地震を体験し、他人ごとではないという意識を持つことが必要だし、気を付けて生活していきたいです。
- 結構面白い体験ができてよかったです。特に段ボールベッドでは、組み立てて寝た時にケーブルテレビのカメラを向けられて緊張しました。いろんな人と出会えたことを含めて、来てよかったなあと思える一日でした。
- 研修講座が4つあり、どの講座も内容が充実していたので、参加者にとって学びの多いキャンプでした。ありがとうございました。
- 母親に勧められてこの研修に参加したが、思ったよりたくさんのことを学べてよかった。ただ体育館はとても暑く、特に1日目の講義では途中で気分が悪くなった。
- 防災キャンプではいろいろな話を聴けてよかったが、熊毛地区についての話題が少し少なかったと思う。三丘地区の水害の話などをもう少し詳しく知りたかった。
- 小学校（三丘小学校）で習っていることが、たくさん出てきた。学校で勉強してきた知識が生かされてよかった。心肺蘇生法では、手がつかれてしまって後半がいい加減になってしまったので、人を救うためには体力も必要なんだと感じた。
- KAGでは、自分の部屋の家具の位置を思い出せなかった。地震がいつ起こっても大丈夫なように、家に帰ったらもう一度自分の部屋の様子を見直してみようと思った。
- 災害の写真などが怖かった。いろいろなことを学べたが、できればこんな知識や技術は使わずに済ませたい。

【防災キャンプを終えて（成果と課題）】

この防災キャンプは、昨年度三丘小学校を中心に実施予定であったものが、コロナ禍のため中止となったのを引き継ぎ、本年度熊毛中学校区の「熊毛学園」（熊毛中学校区5小1中と熊毛北高校）の行事として実施したものである。2日間の研修を終え、その成果と課題については、以下の各項目があげられる。

○成果

- ・防災（特に土砂災害）について、児童生徒、保護者、学校、地域住民のスキルアップにつながった。
- ・熊毛学園全体で取り組んだことにより、学校間の連携・協働の強化につながった。また、防災教育における学校間の温度差のようなものも感じ取ることができた。
- ・地域の方々や関係機関との連携が深まり、今後も継続して活動できる関係作りができた。

△課題

- ・学校の枠を超えた取組であったため、各校からの参加者の見通しがもちづらかった。特に、宿泊を希望する児童生徒がほぼ皆無だったことは予想外であった。
- ・児童生徒が自由に参加できる日程としては、夏休みの終盤というこの時期は絶好であるが、暑さに対する対策などを講じる必要があり、また参加者の健康状態など気を配ることも多かった。
- ・働き方改革が求められる中、土日で宿泊もある現在のプログラムでは、一般教員の参加が難しくどうしても管理職中心の運営にならざるを得ない。

総括すると、「防災キャンプ」の実施の意義は大きく、また学ぶこともたくさんあるが、実施時期や方法、運営側の人材確保など、主に運営面で課題が多かったように思う。このような点を今後検討し、来年度以降の取組に反映させていきたいと思う。